

尚絅学院大学 2021 年度インターンシップについて

インターンシップ科目担当 代表者
玉田 真紀

本学は 2019 年度より学群・学類制の編成に変わりました。2 年に全学群(人文社会学群、心理・教育学群、健康栄養学群)で受講できるキャリア形成の科目として、インターンシップが配置されています。昨年度はコロナ禍で、研修先に学生を送り出す目処が立たず、学群・学類制の一期生にインターンシップ科目を開講することができませんでした。

2021 度の前期 4 月も、コロナ禍の状況が見えない面もありましたが、学生の挑戦したい気持ちに答えて、科目を開講する旨としました。本年度は、2年生 28 名(人文社会学類 9 名、心理学類 10 名、子ども学類1名、学校教育学類 3 名、健康栄養学類 5 名)が、国内 21 ヶ所で研修を実施することができました。当初の計画では、夏期休暇を中心とした 7 月末から 9 月中旬を研修期間と設定し、前期に研修先への事前訪問、企業や事業所の調査、社会人マナーの学習、研修目的についての口頭発表の実施など、様々な準備をして来ました。しかし、宮城県で9月に新型コロナ感染防止のための緊急事態宣言が再び出され、多くの研修先での実習が延長や中止される事態となりました。後期 9 月末に再び、受入可否や期日を再検討していただき、受入先に多大なご負担をかける状況となりました。各職場が大変な業務が続く中で、尚絅学院大学の学生を受け入れてくださった研修先の方々に、心より感謝申し上げます。

本報告の考察を読むと、学生にとって、どの職場においても、研修での体験がいかにより自己の能力に足りない点を自覚するのに役立ったか。それぞれの大学の勉学と関わる課題発見につながったか。それらを考える機会となり得たことが理解できます。大学生活の早期に、社会人モードで他者から客観的に評価される経験ができることに、インターンシップ科目の価値があると考えます。本学学生の人間形成に大切な教育をしてくださった受入先の皆様に、深く御礼申し上げます。

本年はコロナ禍で全ての日常が異常で、学生は皆、提出書類作成から、健康管理と日常行動への配慮、多様な連絡・報告と、忍耐強く臨機応変に対処する大切さを学びました。混乱や失敗を経験した学生もおりましたが、それらを乗り越えて、研修を終えることができました。多くの方々の支えがあって実施できたことを忘れず、今後の自分の成長に生かして欲しいと願っています。

【2021 年度インターンシップ科目担当】

秋月 高太郎(人文社会学類)、玉田 真紀(人文社会学類)、渡部 敦子(心理学類)